

# 市川市域の空襲の全体像

## 市川市への空襲の状況

市川市域では、昭和17年(1942)4月18日に日本の本土が初めて空襲を受けて以来、少なくとも12回の空襲被害に遭っています。

特にB29爆撃機によって東京方面への本格的な空襲が始まった昭和19年11月24日から昭和20年3月10日の東京大空襲までの間に10回の空襲がありました。

アメリカ軍にとって市川市域は空襲の目標ではなく、この時期の空襲の多くは、高い高度から爆弾や焼夷弾を落としたため、効果的な戦果が上がらず、飛行経路になっていた市川市域上空から、東京方面への空襲で落とし残した焼夷弾や爆弾が各所に落とされています。

空襲被害状況図



## 空襲の被害

空襲による市川市域の被害自体は、東京や千葉市に比べれば少ないものですが、全焼した家屋が116戸、全壊した家屋が5戸、死亡者が13名といった記録があります。

市川市域の主な空襲被害状況

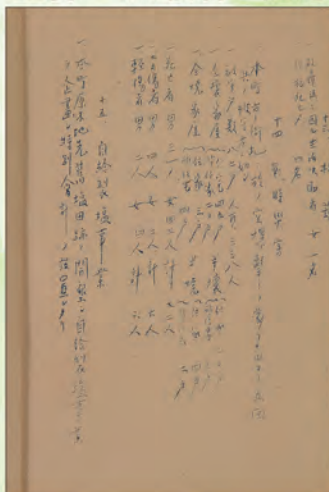
年月日	場所	爆弾等の種類	建物被害状況	死亡・重傷者数
昭和17年 1942. 4. 18	・市川4丁目	機銃掃射	家屋1軒破損	死亡1名 ※日本本土初空襲
昭和19年 1944. 11. 24	・鬼高3丁目	爆弾	山中アルミ工場 2棟全壊	重傷1名 ※B29爆撃機による東京方面への初空襲
昭和19年 1944. 11. 27	・下貝塚2.3丁目	爆弾	物置等2軒全壊	死亡1名・重傷1名
昭和19年 1944. 12. 9	・北国分2丁目	焼夷弾	物置1軒全焼 付近の山林や畑などに焼夷弾が多数落下	
昭和19年 1944. 12. 23	・本北方3丁目付近	爆弾	家屋等2軒全壊 法見寺山門大破	死亡4名
昭和20年 1945. 2. 25	・市川新田付近 ・中山法華経寺門前 ・市川1丁目・菅野2丁目・八幡3丁目 ・国分3丁目	焼夷弾 焼夷弾 焼夷弾 爆弾	家屋全焼57軒 家屋全焼12軒 家屋全焼各1軒 家屋全壊1軒	重傷2名 ※市域で最も建物被害が多かった空襲
昭和20年 1945. 3. 4	・須和田1丁目付近 ・国府台 ・若宮2丁目	焼夷弾 焼夷弾 焼夷弾	家屋等全焼11軒 陸軍工兵第25連隊の兵舎1棟全焼 アパート全焼2棟	死亡1名・重傷4名
昭和20年 1945. 3. 9	・鬼高	日本毛織中山工場	焼夷弾	工場1棟・寮1棟全焼

※『市川市史』第4巻現代・文化・市川市(昭和50年)及び、『戦時下の市川市域』市立市川歴史博物館(平成9年)より作成。

行徳町事務報告書



空襲による被害の記述



行徳地域については残された資料が少なく詳しい実態は不明ですが、全焼家屋が7戸、全壊家屋が65戸、死亡者78名という記録があり、当時の市川市域に比べて死亡者数が多くなっています。